



広島湾におけるブルーカーボンの 取り組みについて

NPO法人瀬戸内さとうみ楽会(広島湾さとうみネットワーク事務局)

山本 裕規

自己紹介(山本 裕規)



瀬戸内さとうみ^{がっかい}楽会



復建調査設計株式会社

URL:<http://www.fukken.co.jp/>

DX推進センターICT推進室 上席主任エンジニア
[技術士(建設部門)、博士(農学)]

- 建設コンサルタントで長年環境部門(海洋調査・解析等)に従事
～海田湾の底質改善の調査・モデル解析など
- 令和4年5月より現部署(DX推進センター)に異動し、社内外のDX化やAI解析、アプリケーション開発等を推進
- 広島湾の再生・活性化に関する取り組みを実施
官民連携組織「広島湾さとうみネットワーク」の設立に関与
官民連携組織を支援するため、NPO法人「瀬戸内さとうみ楽会」を設立
- 趣味でハッカソンに多数参加
(PLATEAU Hack Challengeでの受賞多数、
広島県DoboXデータチャレンジ 大賞受賞)
- その他趣味:アクアリウム、水彩画、ドラム演奏、音楽鑑賞など



広島湾さとうみネットワーク

総会(方針、年度計画、表彰または認証) 議長(広島大学 松田治 名誉教授)

企画運営委員会[学識者+民(公募)+行政]
(プロジェクト審査、年間計画、運営ルール等)

事務局[NPO(公募)+行政]
(会員受付・管理、HP管理、WS・総会・企画運営委員会の運営、会計事務)

会員であれば、自由に
プロジェクトを企画・
提案できる

プロジェクト(PT)

広島湾ブルーカーボン研究会(R3~)

干潟づくり+食と健康PT

高校生による研究PT

海ごみPT (滞在型観光+海ごみ削減)

その他、会員から新たに企画提案のあったPT

イベント等の開催

- ・広報イベント(広島湾さとうみフェスタ)
- ・会員交流イベント、勉強会、見学会など

会員は興味のある
PTに参加可能

広島湾さとうみネットワーク会員(個人会員・団体会員)

提言・
支援要請

広島湾再生
推進会議

官民連携分科会

各種支援
助言
活動フィールドの提供 など

2 ブルーカーボンとは？

ブルーカーボン：

海洋生態系が光合成によって大気中の二酸化炭素(CO₂)を取り込み、海底や深海に蓄積される炭素のこと。

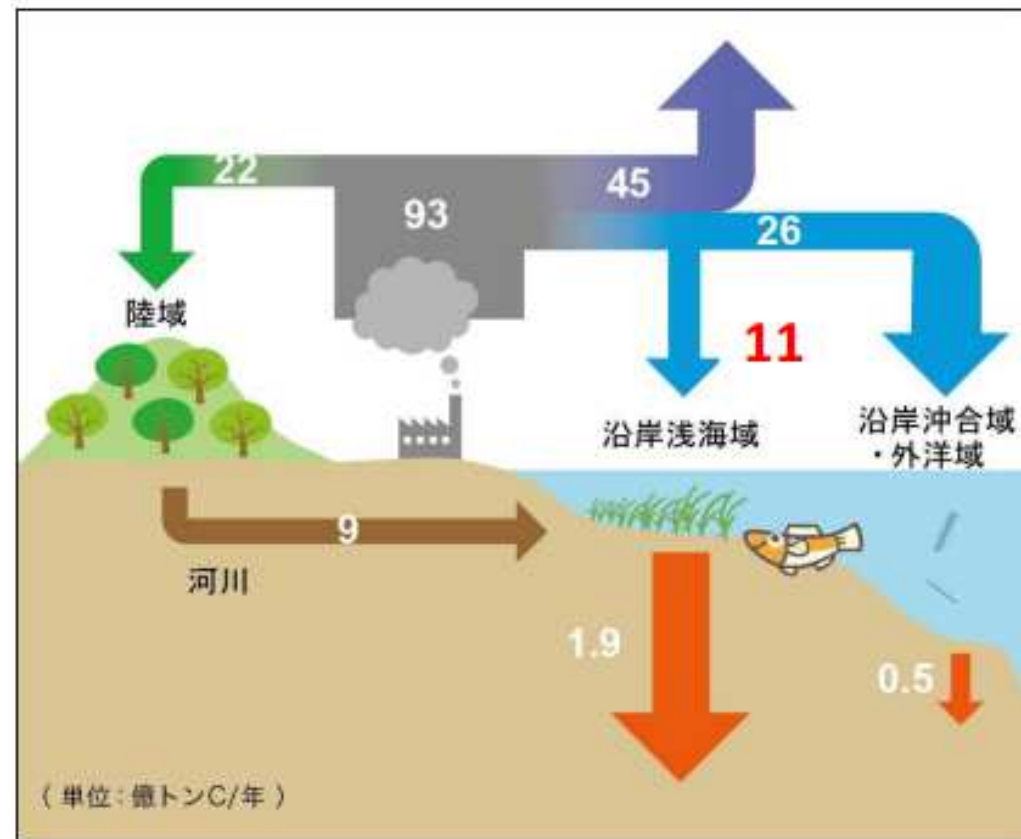
国連環境計画(UNEP)の報告書
「ブルーカーボン」



【ブルーカーボンについて】

- ・ 海表面の0.2%にあたる沿岸域にて50%以上を吸収
- ・ 陸より海の方が多くの炭素を吸収(1.5倍程度と推定)

炭素循環のイメージ

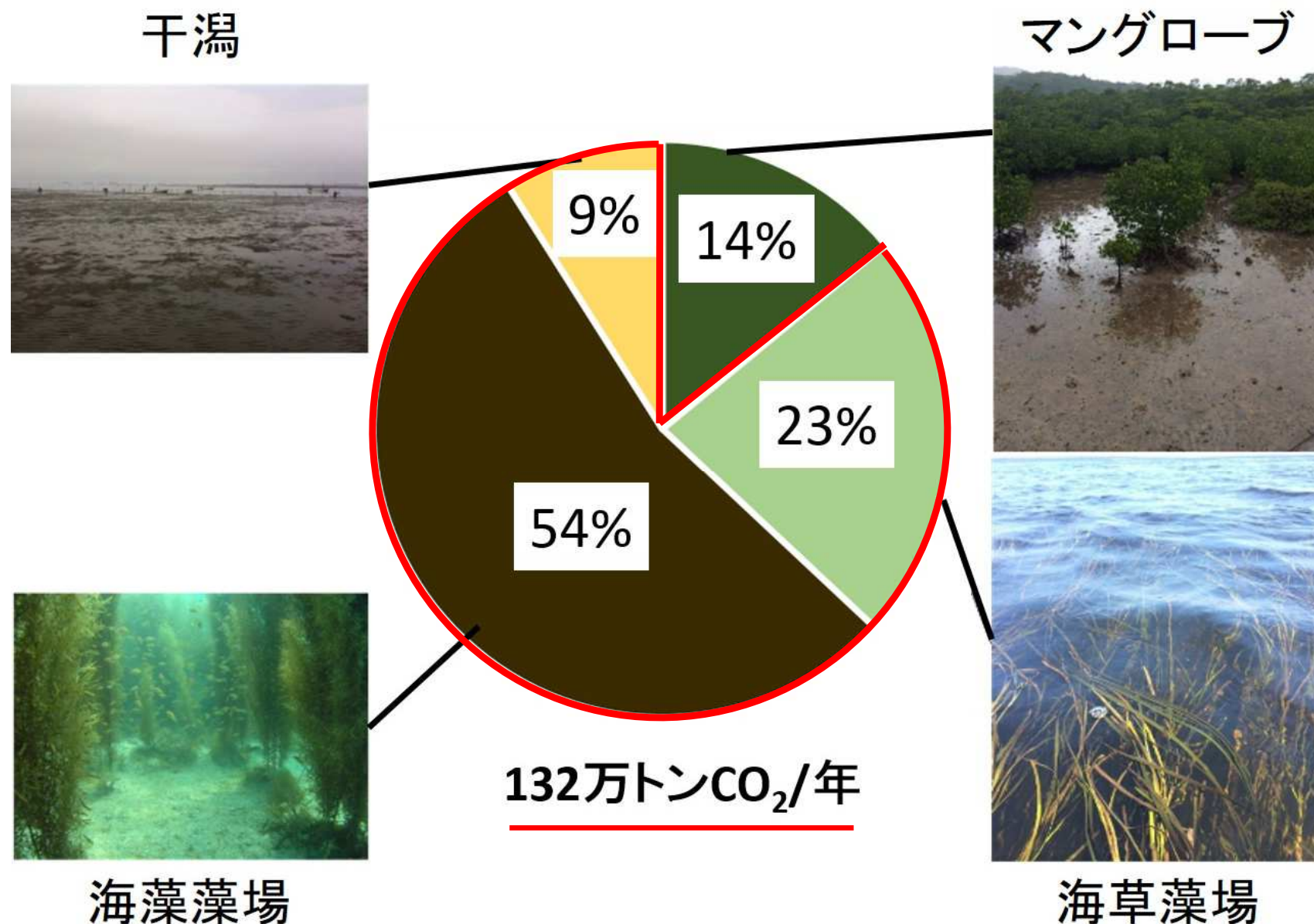


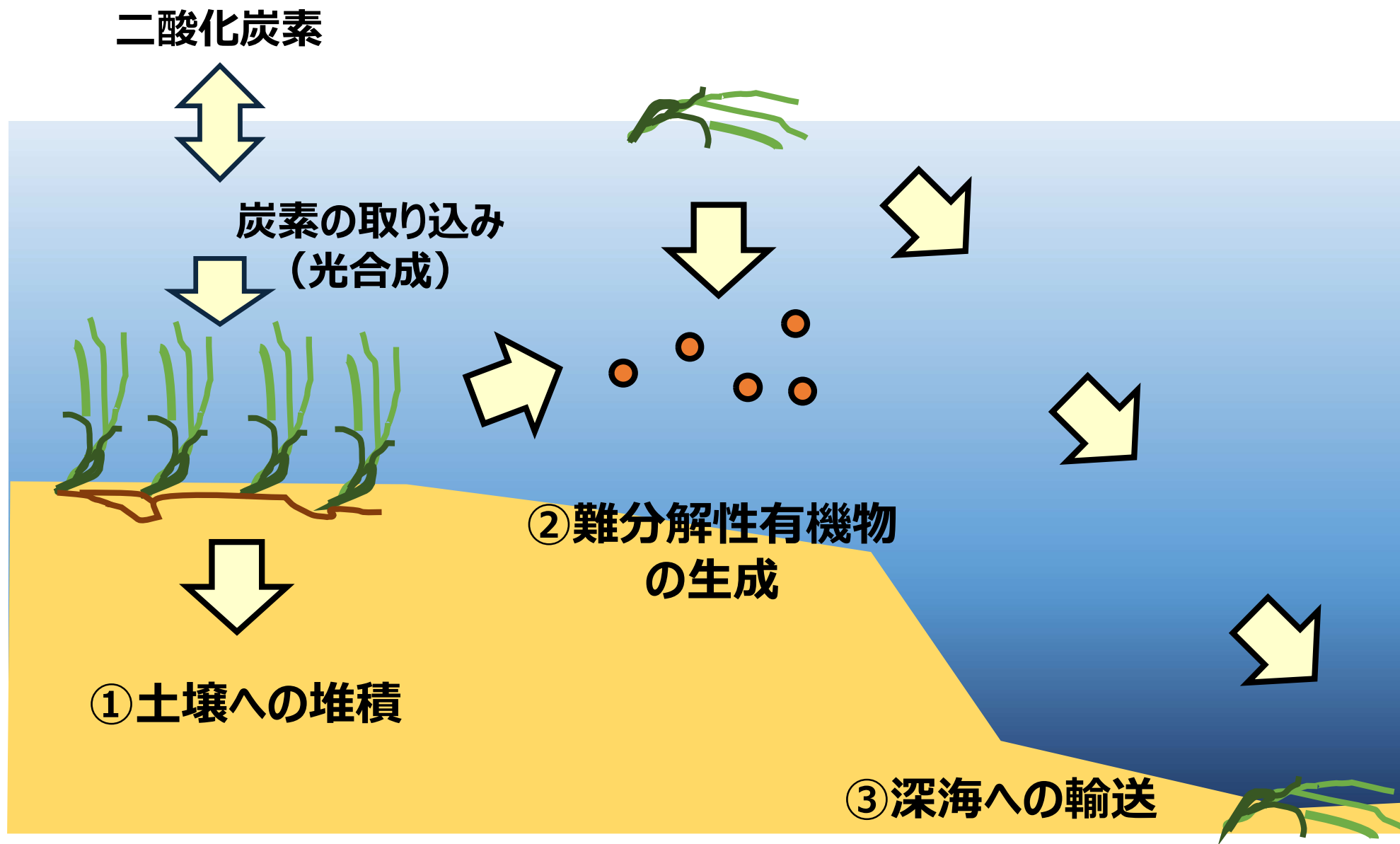
出典：国土交通用プレス資料。

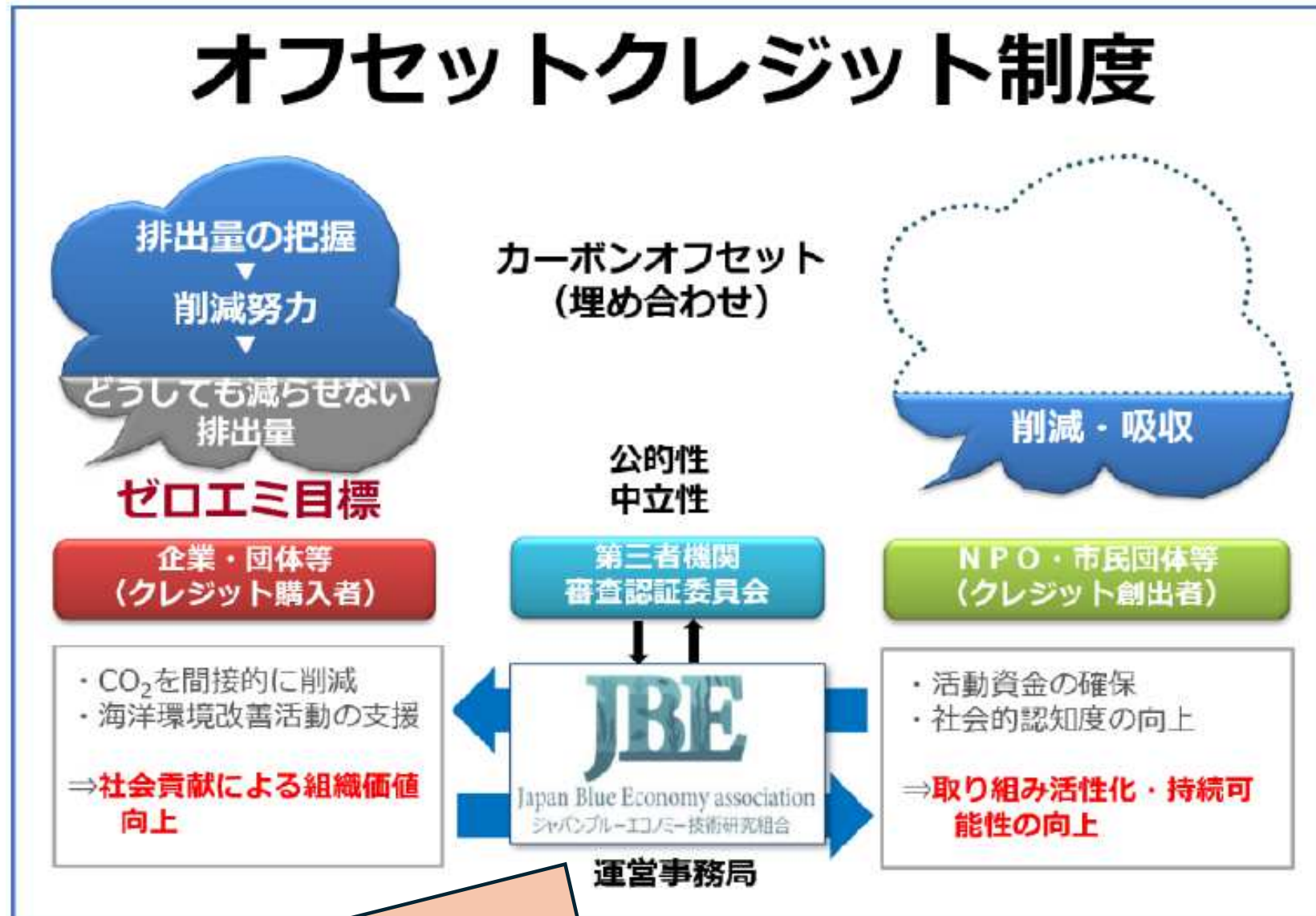
<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001354352.pdf>

3 我が国におけるブルーカーボン吸収量

干潟・藻場(海藻、海草)で全体の86%を占める







Jブルークレジット:

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合(JBE)が発行・管理するカーボンクレジット制度で、ブルーカーボン生態系が吸収したCO₂をクレジットとして取引できる仕組み

【認証機関 (JBE)】



委嘱



第三者委員会
・PJの妥当性
・調査方法
・算定方法等

審査結果



【行政・NPO・漁業者等】

環境保全・再生活動



申請



発行



Jブルークレジット

クレジット代
(収入)

購入



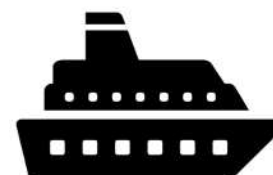
相対取引
定価
入札 等

購入意思の表明



カーボンオフセット

【企業等】

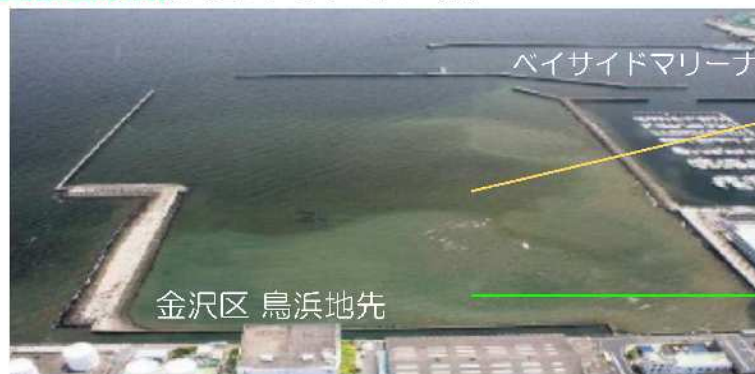


購入企業：住友商事株式会社、東京ガス株式会社、株式会社セブン-イレブン・ジャパン


制度の試行について

実施場所：横浜港 金沢区 鳥浜地先における藻場（アマモ場・アカモク場）

（※）平成21～24年度に国土交通省（関東地方整備局）が藻場造成事業を実施し、**約16ヘクタールの藻場を創出**以降、**NPO法人、漁業者等により藻場の保全活動**が進められている。



実施内容：上記の藻場を対象に、**ブルーカーボン・オフセット制度に係る一連の手続きを実施**し、課題の抽出等を図る。

実施機関：  **ジャパンプルーエコノミー技術研究組合**
（令和2年7月14日付 国土交通大臣による設立認可）

- ✓ NPO・市民団体等によるクレジット認証申請
- ✓ 第三者委員会によるCO2吸収量の評価・クレジット認証
- ✓ クレジット購入希望者の公募、クレジット取引（売買）等

試行結果（概要）

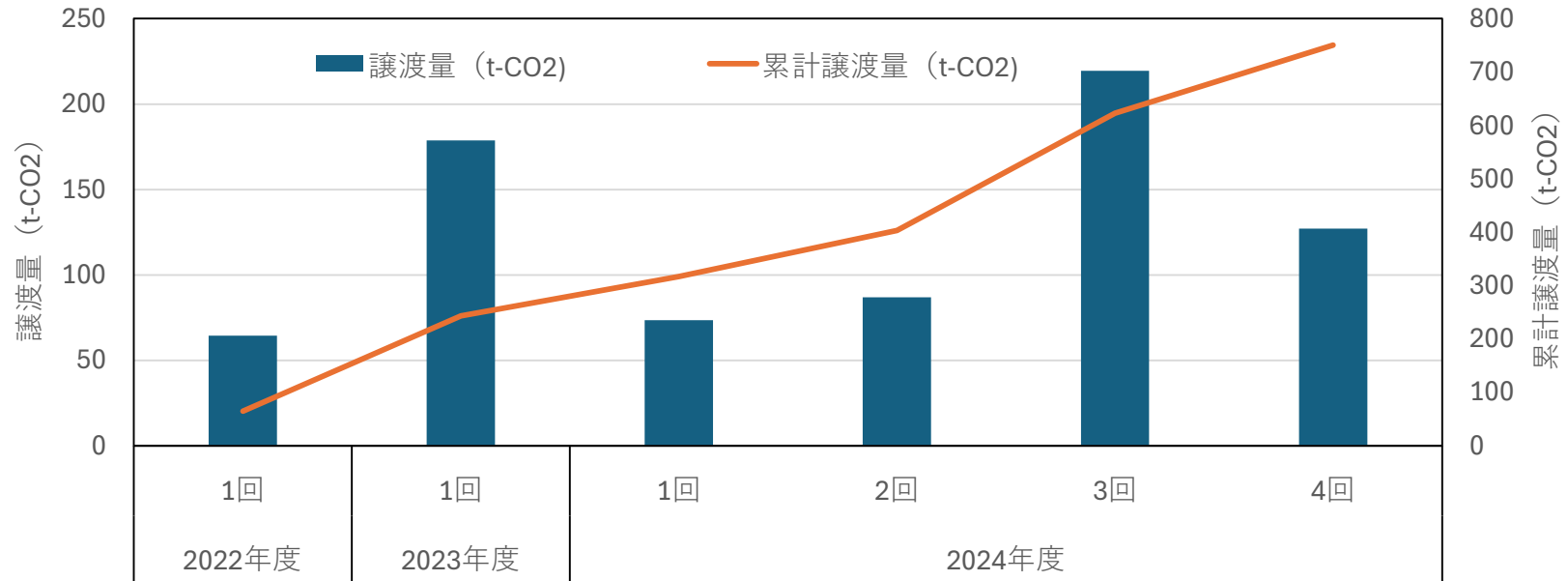
概要：クレジット創出者※1からの申請を受け、JBEが設置した第三者機関の「Jブルークレジット審査認証委員会」による現地確認・審査認証を経て、「Jブルークレジット」認証・証書発行・公募実施などの制度運営を行い、クレジット購入者※2へのクレジット譲渡が成立した。

※1クレジット創出者：横浜市漁業協同組合、特定非営利活動法人海辺つくり研究会、金沢八景・東京湾アマモ場再生会議
 ・「Jブルークレジット」発行量：22.8 t-CO₂（アマモ場・アカモク場）
 ・海洋を活用した気候変動対策、海洋環境保全等の活動に「Jブルークレジット」譲渡資金を活用

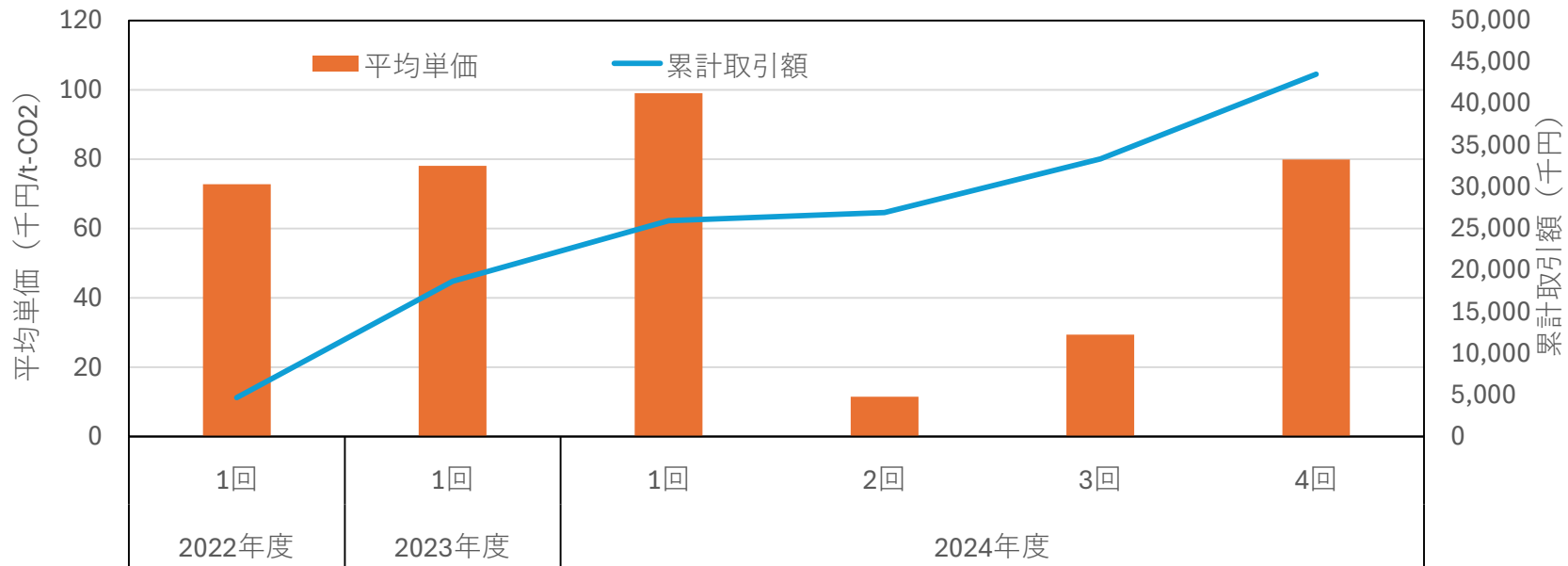
※2クレジット購入者：企業3社（具体的な企業名は、交付式において発表します）
 ・「Jブルークレジット」の譲渡を受け、各社のCSR活動等に活用

8 Jブルークレジットの譲渡量と取引額

Jブルークレジットの譲渡量



Jブルークレジットの取引額



背景①:ブルーカーボン・オフセット制度の設立

ブルーカーボン・オフセット制度について

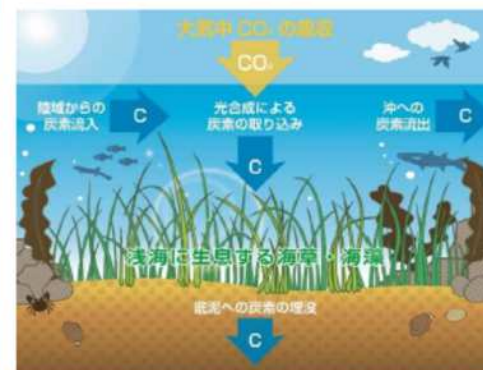
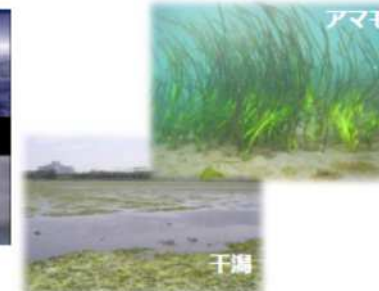
国土交通省
添付資料

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、ブルーカーボン生態系を活用した吸収源の拡大を図るため、藻場の保全活動等の実施者により創出されたCO₂吸収量をクレジットとして認証し、CO₂削減を図る企業・団体等とクレジット取引を行う「ブルーカーボン・オフセット制度」の構築を目指す。



ブルーカーボンとは

- 2009年の国連環境計画 (UNEP) の報告書において、海洋生態系に取り込まれた炭素が「ブルーカーボン」と命名され、CO₂の吸収源の新しい選択肢として提示。

国連環境計画 (UNEP)
報告書「ブルーカーボン」ブルーカーボン生態系によるCO₂吸収の仕組み (概念図)
出典: JBE資料

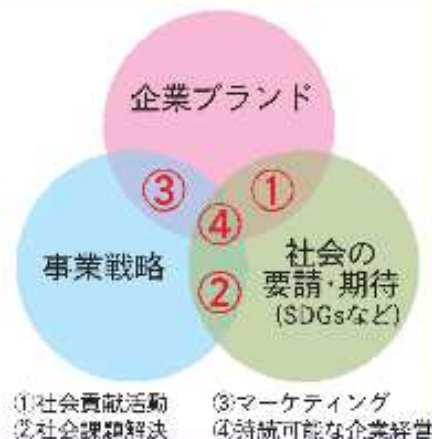
3

これからの干潟・藻場の再生・創出 → 官民が連携して取り組むべき課題

背景②：広島湾さとうみネットワークへの参加拡大

企業ブランディング

広島湾さとうみネットワークの取り組みに参加することで、地域とのつながりを大切にして環境問題にも積極的に貢献しているなど、社会の要請・課題に対して貢献している企業ブランドのイメージアップや新規事業の拡大につながることが期待されます。



SDGsへの貢献

各国、地域だけではなく、企業にもSDGs（持続可能な開発目標）への積極的な関与が求められています。

広島湾さとうみネットワークの取り組みに参加することで、SDGsに積極的に取り組む企業であることをアピールできます。



新たな交流／社員モチベーション向上

広島湾さとうみネットワークの取り組みに参加することで、様々な人や団体との交流が生まれ、企業のPRになるだけでなく、新たなビジネスにつながることが期待されます。

また、社会貢献活動やレクリエーションなどに参加することで、社員のモチベーション向上にもつながります。



具体的な取り組み事例

～豊かな海づくりとCO₂削減への貢献～

企業が広島湾の干潟・藻場の保全活動に参加することで、豊かな海づくりやCO₂削減に貢献するのみならず、社会貢献による企業価値の向上につながることが期待されます。



広島湾さとうみネットワークへ参加することのメリットなどを明確にすることで、企業をはじめ、多くの方に参画いただきたい → ブルーカーボン

(目標)

広島湾においてブル-カーボンと環境価値を創出し、有効活用することで、地域の活性化へ貢献する。

(基本方針)

- ・具体的な実証実験の候補地を選定し、会員のみなんで藻場再生活動に取り組み、可能であればJブルークレジットを創出する。
- ・民間企業、漁業者、市民団体、研究者、行政機関など様々な方々が参加し、情報共有や情報交換が出来る場とする。
- ・参加者が学びあえる場とする。
- ・将来的には、藻場の再生活動などを通じて、地域活性化に繋がる仕組みづくりを目指す。

まずはみなんで勉強・情報交換しながら、ボトムアップで広島湾でのブルーカーボンの創出をめざす！

①ブルーカーボンに関する勉強会

- ・有識者による講演など

②ブルーカーボンの再生に向けた活動

- ・具体的なフィールドでの藻場再生活動

③Jブルークレジットの申請(支援)

④普及啓発活動(環境学習)

- ・アマモの選別や播種体験など

①アマモの花枝採取(5-6月)・追熟(~9月)



②追熟した種子の選別(9-10月)



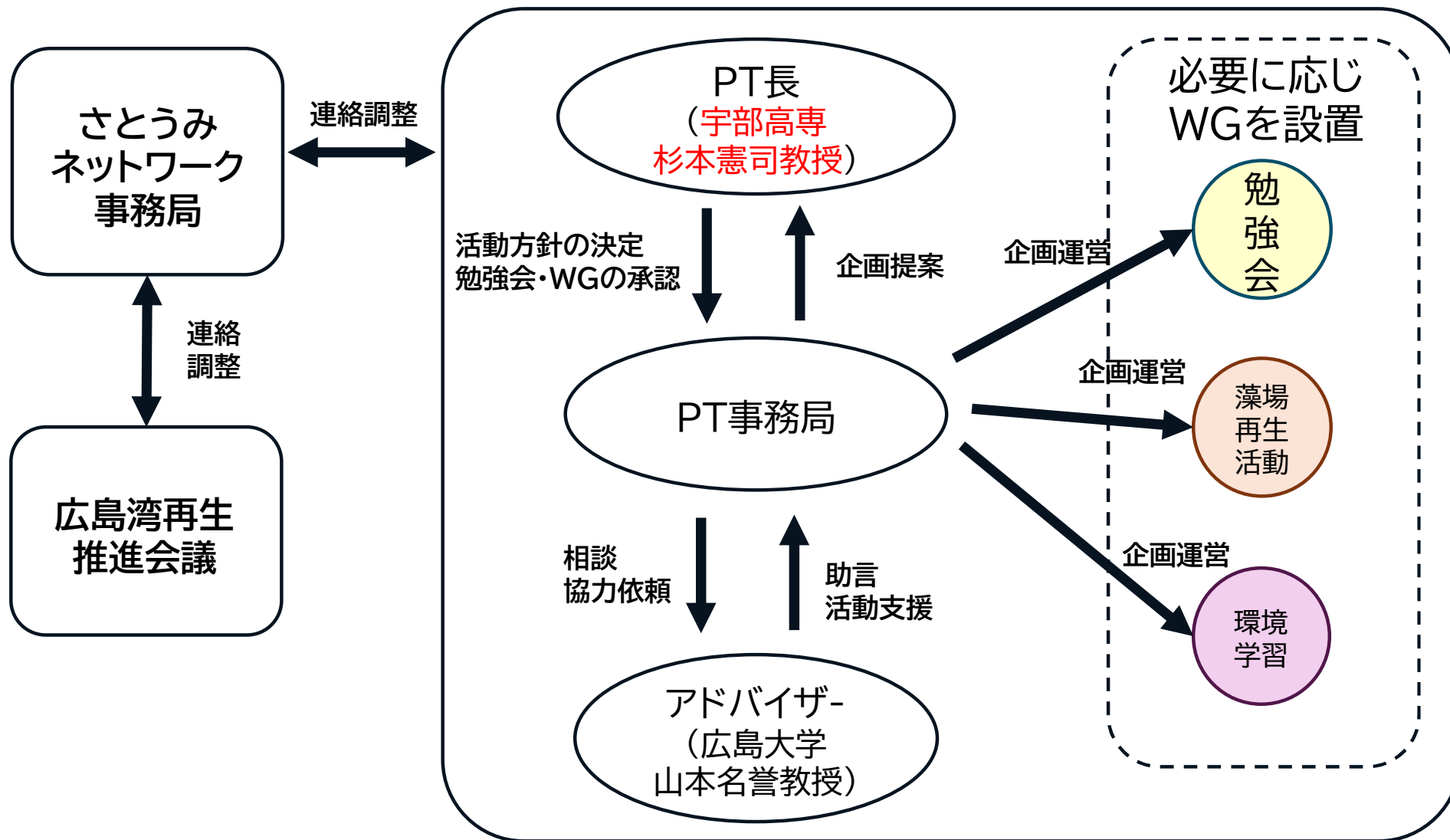
③アマモの種子の播種(10-11月)



④モニタリング(3~4月)



広島湾ブルーカーボン研究会



広島湾さとうみネットワーク会員に登録すれば、自由に本研究会へ参加可能(メーリングリストでの案内)

- ①ブルーカーボンに関する知見や情報の取得
- ②ブルーカーボンに関する技術的な相談
- ③技術開発体制や官民連携体制など
マッチングの支援
- ④異業種間の交流促進・ネットワーク構築

など

定員25名（先着）

11月 4日 月 13:30~16:00

アマモの種まき体験

選別したアマモの種子を海に播く作業を体験できます。
ドローンによるアマモ場の観察会もあります。

※悪天等により延期または中止することがあります。

予備日：11月17日（日）

広島湾ブルーカーボン研究会 プロジェクトチーム長
宇部工業高等専門学校 杉本 憲司 教授

神代漁業協同組合 山口県岩国市由宇町神東1631-4

JR山陽本線 神代駅下車 徒歩2分

※駐車場に限りがあるためできるだけ公共交通機関でお越しください。



講師

集合
場所

- 様々な方にブルーカーボン創出の取り組みの重要性を伝え、活動への参加を促していくために、どのようなコンテンツがあるとよいか？
- ブルーカーボンの取組を行いたい企業や団体の方々とどのように協力していくか？(企業・団体のみなさまのニーズ等)
- 今後も持続的に活動を継続していくための実施体制や資金調達方法をどう構築していくか？